

ルーチン検査の読み方

科目責任者：小飼貴彦（ゲノム診断・臨床検査医学）

I. 前 文

どの科でもオーダーされる「ルーチン検査」のうち、検体検査の結果へのアプローチ法について、RCPC（reversed clinic-pathological conference）形式で演習を行い、臨床医に要求される検査値の「正しい」解釈の方法を学びます。

II. 受入可能人数

5名まで。

III. 担当教員

小 飼 貴 彦

IV. 学習内容

演習形式で最大6回まで行います。スケジュールは適宜設定します。

CCで「検査医学」をまだ履修していない学生には、最初に30分程度、検査値の読み方の基本についての講義を行うので、事前に申し出てください。

演習の1週間前に症例を配布するので、各自下調べをしてください。グループで調べても、個人で調べても良いですが、当日は症例に関して、何らかのコメントができる事が重要です。「考え方の理解」が目標なので、納得できるまで調べたのであれば「わからなかった」でも結構です。当日は、「下調べ」で感じた疑問点などを含めて議論を行います。

V. 学修の到達目標

一般的な臨床科でオーダーされるルーチン検査の結果から、患者ごとに異なる病態を「最大限」に引き出せるようになること。

VI. 成績評価の方法・基準

演習時のディスカッションの内容による。

VII. 使用する教材・資料など

本田孝行著「検査値を読むトレーニング：ルーチン検査でここまでわかる」【医学書院】

VIII. 質問への対応方法

演習後に対応します。それ以外の時間をご希望の場合は、講座までご一報ください。

IX. 求められる事前学習、事後学習及びそれに必要な時間

IV. 学習内容に記載のとおり、演習の1週間前に症例を配布するので、各自下調べをしてください。グループで調べても、個人で調べても良いですが、当日は症例に関して、何らかのコメントができる事が重要です。

「考え方の理解」が目標なので、納得できるまで調べてください。(30分)

X. コアカリ記号・番号

CS-02-03-01

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

演習当日にフィードバックします。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	◎
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	◎
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	◎